

# かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ

所在地：南巨摩郡富士川町鵜沢771-2

TEL：0556-22-8154

FAX：0556-22-8144

HPでも御覧いただけます。URL <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

## 峡南地域教育フォーラム

峡南地域教育推進連絡協議会と峡南教育事務所が主催する峡南地域教育フォーラムが、11月17日(火)に身延町総合文化会館において開催されました。教育委員会関係者、

保育士、教職員、保護者、地域教育推進連絡協議会関係者など112名が参加しました。



### 実践発表 「子どものよさと意欲を引き出す働きかけ」

身延山高等学校手話コミュニケーション部顧問 小澤伸英 先生

手話コミュニケーション部では、差別のない心豊かな社会の実現をめざし、聴覚障がい者への理解と魅力ある手話の普及に努めていますが、顧問として、生徒の意欲を引き出すために、様々な働きかけをしています。まず、人のために役に立ち感謝される喜びを味わわせる活動を仕組んでいます。保育所や学校等での手話教室、

被災地への訪問、県芸術文化祭での手話通訳など、自分が人の役に立っているという実感もてる体験をさせています。次に、生徒の頑張る姿を認めて励ますよう努めています。本人を直接ほめる、第三者から認めてもらう、家族に便りなどで伝えるなど、励まし方を工夫しています。さらに、思い出に残る楽しいイベントに参加させています。全国ろうあ大会、聴覚障がい者とディズニーリゾート旅行、県立ろう学校との交流イベントなどです。他にも、学校でSPEED今井絵理子さんの講演会を開催したり、学園祭のフィナーレでろう学校の生徒とともに手話歌を披露したりしています。大切なことは、生徒に明確な目標をもたせることです。全国高校手話パフォーマンス甲子園への取組を含め、自分の目標を設定シートにまとめさせるようにしています。小澤先生ご自身も、コーチング技術を磨く、手話通訳者の資格を取得するなどの目標を設け、日々努力を重ねています。最後は、ヘレンケラーの言葉を引用して、障がいをもつ人たちにありがとうと言ってもらえるよう、大変でも笑顔で頑張っていきたいとまとめられました。参加された方からは「小澤先生の熱意ある話に感動した」「手話を覚えてみたい」などの声が聞かれました。手話教室の要請にいつでも応じてくださるそうです。連絡先は、身延山高等学校(0556-62-3500)。



### 講演 「子どものやる気を育てるほめポイント」

上級教育カウンセラー・上級心理カウンセラー 齋藤正志 先生

課題のある子どもたちを支援・フォローできる方法として、ミルトン・エリクソンの解決志向アプローチを紹介します。解決志向アプローチとは、「例外」から解決の糸口を見つけ、拡張させ、好循環させることによって問題の解決を図るもので

す。「ほめポイント」とは、子どもがいつもと違う行動「例外」をした時に、その行動を捉え、認めてほめるタイミングのことです。そして、その時、①その行動「例外」はあなたが自分で作りだしたこと(解決したこと)であること、②あなたは問題を自分で解決できる力をもっていること、それを確認しながらしっかりと伝え、ほめて、自信をもたせて、次からの改善につなげていくというものです。この「ほめポイント」を生かして、今まで、多くの子どもたちの様々な課題を解消することができています。大切なことは、自分でできた行動を認め、自信をもたせ、「例外」的行動が何度も起きるように促していくこと、つまり、改善したことを定着させていくことです。ほめる時に大人の価値観に左右される「いいところをほめる」とは違います。「ほめポイント」は、本人が気づいていないことに光をあて、自分にはできるという自信をもたせ、意欲を育てていくものであります。齋藤先生は、教員生活やカウンセラーでの体験事例を数多く紹介しながら、説得力のある説明をされました。会場の方々からもすぐに実践したいという声が数多く聞かれました。すぐに役立つ、内容の濃い講演となりました。

#### かけはし141号の誌面

- p1 峡南地域教育フォーラム
- p2 連載特集『峡南地域の食材』No.13 学力向上のつどい
- p3 学校応援団地域コーディネーター研修会、子どもの育ちを支える地域の活動
- p4 一日教育委員会、早川町交流会、増穂商業・峡南高校学園祭

# ★★連載特集『峡南地域の食材』No. 13

## 市川三郷町「大塚にんじん」と食改さん



### 【大塚にんじん】

数々のマスコミにも紹介されている「大塚にんじん」は、市川三郷町の大塚地区で生産されている伝統野菜です。大塚地区は、ハケ岳の火山灰が堆積した地層になっていて、肥沃できめ細かく深い土壌がニンジンやごぼうなどの根野菜栽培に適しているようです。このような土質のことを「のっぴい」と呼んでおり、栄養豊富な「のっぴい」で育てられた大塚にんじんは太くて長く、収穫時には80cm~120cmにまで成長するものもあります。濃い鮮紅色で濃厚な風味と甘さがあって、非常に栄養価も高く通常のにんじんと比べると、カリウムが約2.1倍、ビタミンB2が約3倍、ビタミンCが約2.3倍、β-カロテンは約1.5倍、食物繊維は約1.5倍とされています。大塚にんじんを使った料理のレシピも数多く考案されていて、ネット等にも広く紹介されています。

### 【大塚にんじん収穫祭】

12月12日(土)に、「第16回市川三郷町ふるさと冬まつり 2015のっぴい大塚にんじん収穫祭」が、みはらしの丘みたまの湯駐車場にて開催されました。当日は、開催時刻前から多くの方々が訪れ、臨時駐車場もいっぱいになるなど大盛況でした。大塚にんじんの販売をはじめ、にんじんめしや各種にんじん料理の無料配布、大塚にんじんの収穫体験や品評会など、様々なイベントが行われました。また、町制施行10周年記念特別企画と称して、フードコーディネーターの芦澤香苗さんをお招きし「大塚にんじんヘルシークッキング」と「大塚にんじん丸ごと一本揚げにチャレンジ」が行われ、町内外から訪れた多くの方々を楽しませていました。大塚にんじんの魅力を存分に味わうことができる収穫祭でした。



### 【市川三郷町の食改さん】



市川三郷町食生活改善推進委員会は、現在、市川大門41名、三珠30名、六郷35名の合計106名で活動しています。今年度は、「減塩」「毎日プラス1皿の野菜料理」を合い言葉に取り組んでいます。住民健診の際に市川大門地区では減塩豚汁を、三珠地区ではミルク餅を、六郷地区では減塩味噌汁を試食してもらい、減塩・生活習慣病予防に取り組んでいます。また、「地産地消」を意識して、大塚にんじんをはじめ地元の野菜を多く使って料理勉強会を行っています。委託事業の「つなぐパートナーシップ事業」では、食改さんが4軒以上の家庭訪問をして塩分濃度測定を行ったり、講習会を開催します。この日(上記写真)は、村松悦子会長さんをはじめ6名の本会役員さんたちが集まって「つなぐリーダー講習会」で披露するレシピの料理実習を行いました。大塚にんじんを使った「にんじんマドレーヌ」他、「きのこ豚丼」「けんちん汁」「チョレギサラダ」の4品を手際よく作り上げていきました。日々勉強しながら、食生活改善活動をとおして、健康づくりに貢献しています。



### 学力向上のつどい



藤森 晴江 先生

12月9日(水)午後7時より、身延町総合文化会館にて、山梨県学力向上対策事業、峡南地区「学力向上のつどい」が開催されました。「子どもの意欲的な学習習慣を育む家庭教育」をテーマに、小・中学生のやる気を伸ばし、望ましい学習習慣を身に付けながら、学力を向上させるための子育てについて、親業訓練インストラクター、藤森晴江先生のお話をもとに、ともに学び合うことにしました。講演は、ロールプレイや話し合いを効果的に取り入れながら、終始和やかな雰囲気の中で進められました。子ども教育白書や教育研究所の調査によると、今の子どもたちに必要なことは、自己評価(自己肯定感や自尊感情)を高めることです。講師の藤森さんは、やる気を育むためには、親として、まず子どもの安心を育てることが大事であると話されました。子どもの心の声に耳を傾け、気持ちを理解し、親に対する信頼を得ることで、子どもの心は安定し、やる気が生まれ、頑張ろうという気持ちが強くなっていきます。そのためには、子どもの気持ちを受け止める共感的な言葉をかけることが必要であり、子どもが自分の言動を冷静に振り返ることができるようにすることが大事になります。親の気持ちを伝えるには、「あなた〇〇しなさい」という「あなたメッセージ」ではなく、「わたしはこう思う」という「わたしメッセージ」を使う方がより効果的であることも話されました。指示するより、自分で適切な行動を考えさせることの方が、やる気の創出につながるそうです。親としての子どもとの関わり方について学ぶ貴重な学習会となりました。

## やまなし学校応援団育成事業 地域コーディネーター研修会



11月25日(水)総合教育センターにて、学校応援団育成事業の推進を図るための研修会が開催されました。まず、三鷹市中央学園コミュニティスクール副会長・文部科学省CSマイスターを務める四柳千夏子さんが自校における先進的な活動事例を紹介しました。その後、四柳さん・NPO法人学びの広場ふえふき理事長の曾根修一さん・白根御勅使中学校区コーディネーターの秋山契さん・中道南小学校長の小林千澄さん4名によるパネルディスカッションが行われました。パネリストの発言内容を一部紹介します。

- (四柳) 三鷹市では、7つの学園においてコミュニティスクールを基盤とした小中一貫教育を実践している。地域とともにある学校として、保護者や地域の人々が学校の目標やビジョンを共有し、学校との連携協働体制を組織的・継続的に確立している。地域の信頼を得る学校、豊かな学びを得る児童生徒、当事者意識をもつ保護者、連携の輪が広がる地域など、好循環が生じている。
  - (曾根) 学びの広場ふえふきでは、学校での学習支援(授業支援と放課後学習教室)と学童保育等の地域支援をしている。また、他にも、土曜日の無料英語塾、月～金の放課後の学習・交流活動、夏休み中の感想文や工作指導・学習教室、獅子舞・紙芝居などの体験活動に取り組んでいる。
  - (秋山) 南アルプス市の7中学校区には1名ずつ地域コーディネーターが置かれ、学校からの要請に応じて、学習支援や行事協力などに関わる地域ボランティアとの連絡調整を図っている。コーディネーター7名によるネットワークも有効であり、様々な要請に対応することができている
  - (小林) 学校経営の柱の一つに「地域学習」を据え、歴史的資産の宝庫である中道地区の学習を通して地域に愛着のもてる児童の育成に努めている。11月に学習成果の発表会を実施している。地域の指導者・協力者は100名を超える。地域学習の定着に向けて、教育課程への位置づけ、全職員が関わる体制づくり、地域人材の情報収集と良好な関係づくりなどに努めている。
- この研修会には県内関係者240名が参加し、パネリストの実践事例に熱心に耳を傾けていました。

## 子どもの育ちを支える地域の活動

(身延町教育研修センター「学びの向学館」 0556-62-0514)

身延町教育委員会では、児童生徒の学力向上のサポート、教育のまちづくり、国際的視野をもった児童生徒の育成、将来の身延町を担う人材の育成を目指して、「学びの向学館」(千須和繁臣代表)を開いています。今年度の主要事業は次の4つです。①中学生3年生への学習支援事業＝8月～2月の土曜日および夏休み・冬休みに開設、講師は元教員や塾教師の方々、中富・身延の2会場。②イングリッシュキャンプ＝町内の小中学生を対象に、英語に親しみその運用能力を高める場として、一泊二日のキャンプを開催。小学生は7月下旬に中学生は8月下旬に実施、指導者は、千須和先生とALT・向学館の講師の方々。③町内教職員地域研修＝8月に、地域の歴史・文化を知り身延のよさを学ぶための研修会を開催。講師は町の文化財担当や地域の方々。④軽度発達障害の研修会＝8月に、参加者のニーズに応じたテーマで研修会を開催、今年度は「普通学級における支援を必要とする児童の理解と支援の在り方」について。

教育研修センターでは、これまでも、「みんなで大河内の子どもを育てる協議会」を開催し、地域ぐるみで子どもを育てる活動などにも取り組んできています。



(南部町教育支援センター 0556-64-4850)

南部町教育委員会では、総合会館内に、教育支援センター(佐野保仁代表)を開設し、悩みや不安を抱える児童生徒や保護者の相談に応じ、関係機関と連携を図りながら、必要な支援を行っています。主要事業は次の4つです。①学力向上対策(なんび未来塾)＝月に2度土曜日に、小学4～6年生(午前)と中学生(午後と夜1回ずつ)を対象とした学習会を開催、講師は元教員の方々、南部・富沢の2会場、②適応指導教室(チャレンジ教室)＝登校に不安を抱える子どもたちに対して、平日の午前中に、自立に向けた学習支援や教育相談を実施、③青少年の教育相談＝青少年や保護者を対象に、電話または面談による相談を実施、④特色ある南部教育＝生きた英語を身に付け、国際社会で活躍できるリーダーを育成するため、小学5・6年生を対象とした、一泊二日の「イングリッシュキャンプ」を夏休みに開催。これは、南部の地で、明治初期に設立されていた私塾「蒙軒学舎」の「自己の目指す道に向かい、自らの進路を切り開いていく力をつけさせる」という理念を引き継いだものです。

## 児童生徒と語る一日教育委員会

## 南部中学校



峡南地域「児童生徒と語る一日教育委員会」（山梨県教育委員会主催）が、10月28日（水）に、晴天の青空の下、元気いっぱいの生徒が集う南部中学校（石川君男校長）において開催されました。これは、学校教育を取り巻く環境や制度が大きく変わりつつある中で、児童生徒が学校や社会に対してどのように考えているかを県の教育委員が直接知ることを通して、よりよい教育行政の推進に役立てていく



というものです。教育事務所の管轄ごとに隔年で開催されています。当日は、阿部邦彦県教育長はじめ県教育委員、県と町の関係者24名が南部中学校を訪れました。はじめの会のあと、長田由布紀教育委員長、白川太教育委員長職務代理者、飯室元邦教育委員、和田一枝教育委員、野田清紀教育委員の5名が、1～3年生の各クラスで特別授業（講話）を行いました。特別授業終了後は、ランチルームにおいて給食をともにしながら交流を深め意見交換を行いました。午後には校内視察、続いて町教育委員との意見交換、学校職員とのディスカッションが行われました。訪れた方々からは学校現場の熱意あふれる様子に感心する声が聞かれた一方、生徒からも通常の授業とはまた異なった、楽しくて分かりやすい講話がとても興味深かったとの感想が聞かれました。



## 早川町 寿さわやか大学・早川南保育所園児交流会



12月11日（金）に、早川町で高齢者と早川南保育所園児との交流会が、早川町民会館で行われました。これは、早川町全域の60歳以上の方を対象とする生涯学習事業「寿さわやか大学」の一講座として実施されたものです。「寿さわやか大学」は、早川町の高齢者同士が生涯にわたり、健康でいきいきと心豊かに過ごすため、ともに学びあひながら

学習することを目的として行われているものです。当日は、早川南保育所の園児7名が、この日のために練習したお遊戯を元気いっぱいに披露しました。一生懸命にお遊戯する園児たちの姿を見て、会場からは惜しみない拍手が沸き起こっていました。その場に居合わせた全ての人たちの心を温めてくれる素晴らしい交流会でした。



## 高校学園祭関係

### 県立峡南高校

峡南高校（向山豊隆校長）は、11月7日から3日間にわたって峡香祭を開催しました。テーマ「頂」を合言葉に、66回目の伝統を受け継ぐ華やかな行事となりました。初日は開祭式に続き、クラスごとのステージ発表が行われ、保護者も大勢訪れて活気あるステージ発表となりました。2日目は模擬店・仮装コンテスト・PTAバザー等、3日目は体育祭が行われました。また工業科の専門高校らしく「ものづくり」の発表の場として、科ごとに生徒制作の展示が行われました。各科の特色を生かした作品は、どれも「誰かのために」、「大切な人のために」という思いが伝わってくる素晴らしいものばかりでした。



### 県立増穂商業高校

増穂商業高校（若林毅文校長）は、11月6日～7日に大きなイベントのひとつである「緑誠祭」を開催しました。今年で60回を迎え、テーマは

「最高で最幸の売祭奴等（うるさいやつら）～笑顔の絶えない空間を～」。



初日は開祭式に続いて、クラス発表、個人パフォーマンス等が行われました。2日目は、学園祭のメインである増商デパートが開催されました。普段学んでいる商業系科目の実践的学習の場として位置づけ、仕入れから販売、そして会計処理まで生徒が行っています。当日は、秋晴れにも恵まれて、開店と同時に多くの人たちが訪れていました。大盛況の増商デパートとなりました。